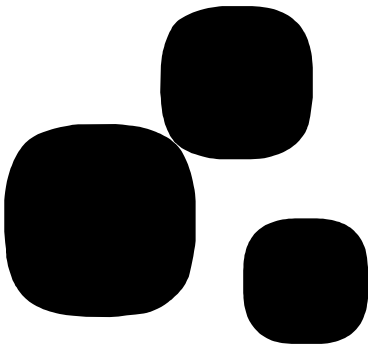
2026年度

授業計画書

（SYLLABUS）



トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校

介護福祉学科　１年

カリキュラム・マップ……４
１．人間関係とコミュニケーション……５
２．チームマネジメント……６
３．社会の理解Ⅰ……７
４．社会貢献活動Ⅰ……８
５．介護の基本Ⅰ……９
６．コミュニケーション技術……１０
７．生活支援技術Ⅰ……１１
８．生活支援技術Ⅱ……１２
９．介護過程Ⅰ……１３
10．介護過程Ⅱ－①……１４
11．介護総合演習Ⅰ……１５
12．介護総合演習Ⅱ－①……１６
13．介護実習Ⅰ－①……１７
14．介護実習Ⅱ－①……１８
15．発達と老化の理解……１９
16．認知症の理解Ⅰ……２０
17．障害の理解……２１
18．こころとからだのしくみⅠ……２２
19．医療的ケアⅠ……２３
20．ＩＴリテラシー……２４
21．福祉用具とＩＣＴ技術……２５

介護福祉学科　２年

カリキュラム・マップ……２８
１．社会の理解Ⅱ……２９
２．社会貢献活動Ⅱ……３０
３．介護の基本Ⅱ……３１
４．介護の基本Ⅲ……３２
５．介護の基本Ⅳ……３３
６．生活支援技術Ⅲ……３４
７．在宅生活支援……３５
８．介護過程Ⅱ－②……３６
９．介護過程Ⅲ……３７
10．介護総合演習Ⅱ－②……３８
11．介護総合演習Ⅲ……３９
12．介護実習Ⅰ－②……４０
13．介護実習Ⅱ－②……４１
14．認知症の理解Ⅱ……４２
15．こころとからだのしくみⅡ……４３
16．医療的ケアⅡ……４４
17．医療的ケアⅢ……４５
18．ＩＴリテラシーⅡ……４６
19．国家試験対策……４７
20．介護特論……４８

介護福祉学科

１年

カリキュラム・マップ（介護福祉学科）

2026年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

1）介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
2）多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための**思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
3）自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
4）人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分		履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	2	30	1	○			◎
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○			◎
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	○
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		
		社会の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○		
	選択科目	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		◎	○	○
		社会貢献活動Ⅱ	2	90	2		○	◎	○
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	1	60	2	◎	○		○
		介護の基本Ⅱ	2	30	1	◎	○		○
		介護の基本Ⅲ	2	60	2	◎	○		○
		介護の基本Ⅳ	2	30	1	◎	○		○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	○
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1	30	1	◎			
		生活支援技術Ⅱ	1	120	3	◎	○	○	○
		生活支援技術Ⅲ	2	120	3	◎	○	○	○
		在宅生活支援	2	60	2	◎	◎	○	○
	介護過程	介護過程Ⅰ	1	60	2	○	◎		
		介護過程Ⅱ－①	1	30	1	○	◎	○	○
		介護過程Ⅱ－②	2	30	1	○	◎	○	○
		介護過程Ⅲ	2	30	1	○	◎		
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1	30	1	◎			○
		介護総合演習Ⅱ－①	1	30	1	◎	○		○
		介護総合演習Ⅱ－②	2	30	1	◎	○		○
		介護総合演習Ⅲ	2	30	1	○	◎		○
	介護実習	介護実習Ⅰ－①	1	80	2	◎		○	○
		介護実習Ⅰ－②	2	50	1	◎		○	○
		介護実習Ⅱ－①	1	120	3	◎		○	○
		介護実習Ⅱ－②	2	200	5	◎	○	○	○
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解	1	60	2	◎	○		
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		○
		認知症の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○		○
	障害の理解	障害の理解	1	60	2	◎	○		○
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	1	60	2	◎	○		○
		こころとからだのしくみⅡ	2	60	2	◎	○		○
医療的ケア		医療的ケアⅠ	1	30	1	◎	○		
		医療的ケアⅡ	2	60	2	◎	○		○
		医療的ケアⅢ	2	30	1	◎	○		○
その他		ＩＴリテラシー	1	60	2	◎	○	○	
		福祉用具とICT技術	1	60	2	◎	◎	○	○
		国家試験対策	2	60	2	◎			
		介護特論	2	30	1				◎
					◎の科目数		30	8	2	3
					○の科目数		8	22	13	29

授業科目	人間関係とコミュニケーション			担当者	伊藤　大悟		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

介護サービスはヒューマンサービスであり、利用者やその家族、同職種・多職種との良好な関係づくりが不可欠である。本授業では、人間の多面的な理解を基礎に、自己理解を深め、対人関係におけるコミュニケーションの基本的な考え方や姿勢を学ぶ。あわせて、組織やチームの役割を理解し、介護福祉士としてチームの一員として働くための基礎的視点を養う。

到達目標

① 自己理解を深め、自身の傾向や課題を説明できる。
② 対人関係における適切な関わり方を理解できる。
③ 組織やチームの中での役割と関係性を理解できる。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション　人間と人間関係の総論、本授業の目的と全体像の理解
２．人間と人間関係　人と人との距離感や関係性が行動や感情に与える影響の理解
３．自己分析①　自分の強み・価値観・思考傾向の把握
４．　〃　②　認識のずれや思い込み、感情と行動の関係の理解
５．対人関係におけるコミュニケーション　伝える・受け取る・解釈する過程とコミュニケーションエラー
６．人間関係における基本姿勢　傾聴、非言語コミュニケーション、バイステックの７原則
７．関係性によるあいさつと含まれるメッセージ　立場や関係性による表現の違いの理解
８．組織のコミュニケーションの検討　組織における情報共有とブレーンストーミングの実践
９．介護サービスとほかの仕事の違い　ケアを展開するさまざまなチームの理解
10．ケアを展開するためのチームマネジメント（概論）　チームで働くための基本的な考え方の理解
11．人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント　チームの中で成長し続ける視点の理解
12．介護福祉士としてのキャリアのイメージ　スーパービジョンの機能と専門職としての成長
13．組織の目標達成のためのチームマネジメント　組織理念や委員会の役割の理解
14．専門職として働き続けるための視点　組織と個人の関係性の整理
15．まとめ　人間関係・組織・チームの基礎の整理と後期への接続

事前・事後学習の内容

・授業前にシラバスにより各回の内容を把握しておくこと。
・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

・評価の方法・基準

①出席状況（30%）② 授業への参加態度（20%）③ 授業内課題・ワーク（20%）④ レポート（30%）

教科書

介護福祉士養成講座編集委員会（2022）『最新 介護福祉士養成講座１ 人間の理解』（中央法規）

備考

講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授業科目	チームマネジメント			担当者	伊藤　大悟		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

本授業では、前期で学んだ人間関係やコミュニケーションの基礎を踏まえ、介護現場においてチームの一員として役割を果たすための力を養う。自己分析・他者理解を基盤に、リーダーシップやフォロワーシップ、報連相、意思決定の考え方を学び、事例や演習を通して判断力を高めることを目的とする。

到達目標

① チームの中で自他の役割を理解できる。
② 状況に応じた判断と対応を説明できる。
③ 介護現場での協働と情報共有を理解できる。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション　後期科目の目的と全体像、前期とのつながりの理解
２．自己分析・他者分析　チームの一員としての自分の特性と、他者との違いの理解
３．他者理解の深化　価値観の違い、少数派、摩擦が生じる理由の理解
４．グループとチームの違い　集団とチームの構造的な違いの理解
５．介護実践におけるチームマネジメントの意義　介護現場においてチームで働く必要性の理解
６．チームワークトレーニング①　役割分担と協働の体験的理解
７．チームワークトレーニング②　成果とプロセスの関係の理解
８．プレゼンテーション　考えを整理し、相手に伝える責任と合意形成
９．リーダーシップとフォロワーシップ　役割としてのリーダー・フォロワーの関わり方の理解
10．報連相と情報共有の実践　判断ミスを防ぐための報連相と情報共有の考え方
11．チームビジョンの構築と目標達成　方向性を共有し、目標に向かう考え方の理解
12．タイムマネジメントと優先順位　限られた時間と資源の中で判断する視点
13．判断力と意思決定のトレーニング　介護現場を想定した事例を用いた判断と対応の演習
14．介護現場におけるチームマネジメントの実践　具体的事例を通して、役割と関わり方を整理する
15．チームマネジメントのふりかえり　後期全体の整理と、介護福祉士としての立ち位置の確認

事前・事後学習の内容

・授業で学んだことを日々の生活（学校生活や行事等）で実践し、できたこと、できなかったことを日々振り返る。

評価の方法・基準

①出席状況（30%）② 授業への参加態度（20%）③ 授業内課題・ワーク（20%）④ レポート（30%）

教科書

・必要資料は適宜配付する。

備考

職能団体等をリーダーとして引っ張る経験を持つ教員が、在学中、または現場に出て必要なチームマネジメントを解説する。

授業科目	社会の理解Ⅰ			担当者	鹿見　勇輔		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

現代社会において、社会保障制度は私達の生活と密接不可分な関係にあり、日常生活の安定や安心の確保に繋がっている。本授業では、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識及び社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身に付けることを目的とする。

到達目標

・近年の社会問題や社会課題に興味・関心を持つことができる。
・日本の社会保障に関連する課題を把握し、自身の考えを言語化することができる。
・日本の社会保障制度の全体像を把握し、他者に説明することができる。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション
２．生活の基本機能、ライフスタイルの変化、家族の機能と役割
３．社会・組織の機能と役割、地域、地域社会、地域社会における生活支援
４．地域共生社会の実現に向けた制度や施策
５．社会保障の基本的な考え方
６．日本の社会保障制度の発達
７．年金保険制度
８．医療保険制度
９．雇用保険制度と労働者災害補償保険制度、各種社会扶助
10. 介護保険制度①
11. 〃 ②
12. 障害者総合支援制度①
13. 〃 ②
14. 介護実践に関連する諸制度
15. まとめ

事前・事後学習の内容

・授業前にシラバスにより各回の内容を把握しておくこと。
・テーマに関連した社会問題等に関心を持ち、自身の考えを持って臨むこと。
・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

・①出席状況（30%）、②授業態度（10%）、③レポート（10%）、④期末試験（50%）を合わせて評価する。

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会（2022）『最新 介護福祉士養成講座２ 社会の理解 第２版』（中央法規）

備考

・講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授業科目	社会貢献活動Ⅰ			担当者	介護福祉学科教員		実務経験
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	90（2）

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ。

到達目標

・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

1．目的理解
2．導入講座
3．グループでの活動検討
4．貢献活動①
5．〃 ②
6．〃 ③
7．〃 ④
8．〃 ⑤
9．中間振り返り
10．貢献活動⑥
11．〃 ⑦
12．〃 ⑧
13．〃 ⑨
14．〃 ⑩
15．振り返り

【後期】

16．貢献活動⑪
17．〃 ⑫
18．〃 ⑬
19．〃 ⑭
20．〃 ⑮
21．中間振り返り
22．貢献活動⑯
23．〃 ⑰
24．〃 ⑱
25．〃 ⑲
26．〃 ⑳
27．活動報告会準備①
28．〃 ②
29．〃 ③
30．活動報告会

事前・事後学習の内容

・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと。

評価の方法・基準

・活動への出席状況（50%）、取り組み態度（50%）

教科書

・なし

備考

授業科目	介護の基本Ⅰ			担当者	吉岡　俊昭 廣木　佑介		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみを理解する。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢や介護をする上での基本を養う。また、介護福祉士の歴史や多職種連携についても学びを深める

到達目標

・生活を支援する意味が理解できる。
・介護を必要とする人の理解ができる。
・介護福祉の歴史から基本理念である尊厳の保持や自立支援の考え方を理解できる。
・地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割と必要性について説明できる。
・多職種を理解し、連携の必要性を理解できる

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション
２．自分が目指す介護福祉士とは
３．介護福祉士とは
４．自己分析と他者分析
５．私たちの生活の理解「生活とは何か」
６．価値観の理解と共有
７．介護福祉を必要とする人の理解
８．「自分らしさ」と「その人らしさ」
９．尊厳ある生活とは
10．利用者本位と利用者主体の考え方
11．地域共生社会とは
12．地域連携の意義と目的
13．地域連携の中での介護福祉士の役割
14．老衰死と生死観
15．中間まとめ

【後期】

16．介護福祉を取り巻く状況
17．介護福祉の歴史
18．介護福祉の基本理念
19．社会福祉士及び介護福祉士法
20．介護福祉士の活動の場と役割
21．利用者の生活を支えるしくみ
22．生活を支えるフォーマルサービスとは
23．生活を支えるインフォーマルサービスとは
24．地域連携
25．多職種連携・協働の必要性
26．多職種連携・協働に求められる基本的な能力
27．保健・医療・福祉職の役割と機能
28．多職種連携・協働の実際
29．介護現場からのメッセージ
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・教員が授業後に次回の授業説明を行い、その部分の教科書を読むなど授業の準備を行う。また、教員から出された課題を次の授業までに行っておく。

評価の方法・基準

・筆記試験(70%)、レポート(15%)、授業への意欲的な参加(15%)で評価を行う。

教科書

・『介護の基本Ⅰ』(中央法規出版)、『介護の基本Ⅱ』(中央法規出版)

備考

介護施設で介護職・生活相談員に従事した経験を持つ教員が、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続を支援するためのしくみについて解説する。

ゲスト講師による授業あり

授業科目	コミュニケーション技術			担当者	小代 桜		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	60（2）

授業の目的・内容

介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、演習を通して、利用者や利用者家族、多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。

到達目標

・コミュニケーション技術を理解することで、実習時に利用者や多職種とのコミュニケーションが円滑にできるようになる。
・介護福祉士国家試験（コミュニケーション技術の分野）で、90%とれるようになる。

授業計画

【前期】

1．介護におけるコミュニケーションとは
2．介護におけるコミュニケーションの対象
3．援助関係とコミュニケーション
4．タイプ別のコミュニケーション
5．コミュニケーションの基本技術（傾聴・受容）
6．コミュニケーションの基本技術（共感・距離）
7．言語・非言語・準言語コミュニケーション
8．動機付けのコミュニケーション技法
9．物の見方に変化を生み出す技術
10．アンガーマネジメント
11．集団におけるコミュニケーション技術
12．コミュニケーション障害への対応の基本①
13．〃 ②
14．自分のコミュニケーションについて考える
15．まとめ

【後期】

16．利用者の特性に応じたコミュニケーション①
17．〃 ②
18．〃 ③
19．〃 ④
20．コミュニケーション障害のある利用者への対応
21．家族とのコミュニケーション
22．家族関係と介護ストレスへの対応
23．チームコミュニケーション①
24．〃 ②
25．連絡・報告・相談
26．記録の技術
27．会議・議事進行・説明の技術
28．事例検討に関する技術
29．情報の活用と管理のための技術
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前学習は、教科書を読んでくる。
・事後学習は、練習問題やプリントの復習をする。

評価の方法・基準

・筆記試験（前期テスト＋後期テスト）（100%）
　一部授業の出席状況、態度、作成物も考慮

教科書

・『コミュニケーション技術』（中央法規出版）

備考

授業科目	生活支援技術Ⅰ			担　当　者	梅田　光希		実務経験 ○
履修方法	講義	期　　間	前期	学科・学年	介護１年	時　間　数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解し、福祉用具を選択・活用する基礎的な知識・技術を習得する。また住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を習得する。

到達目標

・住まいの多様性や居住環境の整備の必要性を理解できる。
・福祉用具を活用する基礎的知識・技術を習得できる。

授業計画

【前期】

１．生活支援の基本的な考え方
２．介護保険制度と障害者総合支援法について
３．生活支援とＩＣＦの視点
４．住まいの役割と機能
５．加齢と生活空間
６．快適な室内環境
７．安全に暮らすための生活環境
８．高齢者・障がい者の住まい
９．生活支援における福祉用具の重要性
10．福祉用具の種類
11．福祉用具の実際
12．福祉用具の管理とリスクマネジメント
13．介護ロボットの開発・活用にみるこれからの福祉用具の可能性
14．生活支援と多職種連携(チームアプローチ)
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術Ⅰ』(中央法規出版)　・必要資料は適宜配布する

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、福祉用具の知識や活用方法、居住環境等について解説する。

授業科目	生活支援技術Ⅱ			担当者	吉岡　俊昭 梅田　光希		実務経験 ○
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	１２０（３）

授業の目的・内容

尊厳の保持の視点からどのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術と知識について習得する。

到達目標

・生活支援とは何かが理解できる。
・対象者の状況、状態に合わせた基本的な生活支援技術を展開することができる。

授業計画

【前期】

1・2．生活支援とは何か
3・4．居住環境の整備（寝具の環境）①
5・6．〃　②
7・8．利用者とのコミュニケーション
9・10．認知症の方とのコミュニケーション
11・12．自立に向けた身じたくの介護（衣服の着脱）
13・14．自立に向けた移動の介護（起き上がり・体位変換）
15・16．〃　（立つ・座る・歩行介助）
17・18．〃　（車いす移乗）
19・20．自立に向けた食事の介護
21・22．自立に向けた排泄の介護（尿便器・Ｐトイレ）
23・24．〃　（パッド・オムツ交換）
25・26．自立に向けた入浴・清潔保持の介助①
27・28．〃　②
29・30．まとめ

【後期】

31・32．実習の振り返り
33・34．自立に向けた移動・移乗の介護①（移乗の介助応用①）
35・36．〃　②（〃　②）
37・38．〃　③（〃　③）
39・40．〃　③（〃　④）
41・42．〃　④（リフトを使った移乗）
43・44．自立に向けた移動・移乗の介護（車椅子での外出）
45・46．自立に向けた身じたくの介護（口腔ケア）
47・48．自立に向けた身じたくの介護（衣服の着脱）
49・50．ケアコンテスト参加
51・52．レクリエーション①
53・54．〃　②
55・56．〃　③
57・58．〃　④
59・60．まとめ

事前・事後学習の内容

・事前に授業内容を伝え、次の授業で行う単元の教科を読み理解しておく。授業後は授業で習った実技の復習を行う。

評価の方法・基準

・試験（70%）、授業への参加度・発言の積極性・提出物（30%）

教科書

・『生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（中央法規出版）
・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、基本的な生活支援技術について利用者の状態にあった安全で安楽な技術について解説する。

ゲスト講師による授業あり

授業科目	介護過程Ⅰ			担当者	梅田　光希		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して，介護過程の仕組みや目的を理解し、基本的な展開方法を習得する。

尊厳の保持や自立支援の視点から個別のニーズに対応できる展開の方法を理解し、実践的な展開を行なうための基礎知識を身につける。

到達目標

・介護過程の意義と目的が理解できる。
・基本的な展開方法を理解できる。
・個々の利用者を知り、根拠に基づいた生活課題を導き出すことができる。

授業計画

【前期】

１．生活を支える介護の仕事とは
２．根拠のある介護とは
３．介護過程とケアプラン
４．介護過程とＩＣＦ
５．介護過程の全体像・意義と目的
６．介護過程の展開・アセスメントとは
７．情報収集
８．情報の解釈・関連づけ・統合化とは①
９．　〃　②
10．情報収集の実際
11．情報の解釈・関連づけ・統合化の演習①
12．　〃　②
13．生活課題の明確化とは
14．生活課題の明確化の実際
15．まとめ

【後期】

16．アセスメントについて（前期の復習）
17．介護計画の立案とは
18．介護計画における目標とは
19．具体的な支援内容と支援方法について
20．事例にもとづいた介護計画の立案①
21．　〃　②
22．実施について
23．実施における留意点と記録について
24．評価について
25．評価における留意点と修正や記録について
26．介護実習における介護計画の実際①
27．　〃　②
28．　〃　③
29．　〃　④
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

・『介護過程』（中央法規出版）
・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事した経験を持つ教員が、介護過程の仕組みや目的等、基本的な展開方法を解説する。

授業科目	介護過程Ⅱ-①			担当者	寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するうえで、最も重要となる情報収集が適切に行える能力を養う。

到達目標

・利用者の生活状況や思いを把握する視点を持つことができる。
・把握した情報を適切に言語化できる。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション、介護過程の意義、目的
２．価値観の違い
３．利用者の思いを汲みとるトレーニング①
４．　〃　②
５．　〃　③
６．情報収集シートの記入方法
７．情報収集の実際　（コミュニケーション）
８．　〃　（起居、移乗・移動動作）
９．　〃　（排泄、整容）
10．　〃　（入浴、更衣）
11．　〃　（レクリエーション、余暇活動、人間関係）
12．　〃　（フェイスシートの記入、医療情報）
13．　〃　まとめ
14．介護実習Ⅱ-①に向けて「アセスメント」の実際①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・提出物（90%）、授業態度（10%）

教科書

・『介護過程』（中央法規出版）
・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、利用者の情報収集の方法について解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅰ			担当者	寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

介護実習とは何かを理解し、介護実習Ⅰに必要な知識や技術を確認する。

到達目標

・介護実習Ⅰに必要な知識や技術を身につけることができる。
・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【前期】

１．介護実習の意義と目的
２．高齢者の暮らしを考える
３．実習Ⅰのねらいと実習モデル
４．実習Ⅰで想定される実習先　①特別養護老人ホーム　②介護老人保健施設
５．　〃　③通所介護　④その他実習先
６．実習を始めるまでの手続き①
７．　〃　②
８．　〃　③
９．生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
10．　〃　②
11．　〃　③
12．　〃　④
13．実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14．実習後指導
15．実習報告会

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・提出物（90%）、授業態度（10%）

教科書

・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習Ⅰに必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅱ−①			担当者	寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護１年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。

演習課題に取り組み、介護過程を中心とした実習Ⅱ−①に必要な知識・技術、多職種連携の視点を学ぶ。

到達目標

・介護実習Ⅱに必要な知識や技術を身に付けることができる。
・介護実習を始めるための諸手続きが行える。

授業計画

【後期】

１．実習Ⅰの振り返り
２．実習Ⅱのねらいと実習モデル
３．障害者支援施設、重症心身障害者施設とは
４．実習施設を調べる
５．実習を始めるまでの手続き①
６．　〃　②
７．自己紹介新聞作成①
８．　〃　②
９．実習目標について
10．生活支援技術を軸にした介護実習「実習日誌」①
11．　〃　②
12．　〃　③
13．実習前指導、実習前の諸注意、書類の確認
14．実習後指導
15．実習報告会

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・提出物（90%）、授業態度（10%）

教科書

・必要書類は適宜配布する。

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ教員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護実習Ⅰ-①			担当者	吉岡　俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	前期	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	８０（２）

授業の目的・内容

10 日（80 時間）の介護現場での実習を行う。比較的元気な高齢者とのコミュニケーションを図り、関わることにより、高齢者の生活の様子や興味・関心を理解する。また、高齢者が生きてきた時代を理解することを通して、高齢者の生活を多面的に理解し利用者援助に役立てる。さらに、介護職員からの指導を受けながら介護業務に関わることで、介護福祉士としての基礎作りを行い、今後の学習に生かす。

到達目標

・言語的コミュニケーションが比較的可能な利用者との人間的なふれあいを通して、利用者の特性を理解する。
・利用者の日常生活を知り、介護の機能ならびに施設職員の一般的役割について理解する。
・初歩的な日常生活援助ができる。

授業計画

【前期】

10 日間（80 時間）の介護実習を行う。10 日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

（1）実習施設の概要を理解する。
（2）職員の構成と職務内容を理解する。
（3）利用者の日常生活を理解する。
（4）介護職の役割を理解する。
（5）基本的な日常生活援助を理解する。
（6）利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
（7）指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

事前・事後学習の内容

（事前学習として）
・高齢者の身体的、心理的な特徴
・高齢者のコミュニケーションの特性
・配属された実習施設の理解を図る。
・利用者が生きてきた時代背景　など充実した介護実習が行なえるようにする。

（事後学習として）
・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

・2026 年度介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-①			担当者	吉岡　俊昭		実務経験
履修方法	実習	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	１２０（３）

授業の目的・内容

15 日間（120 時間）の介護実習を行う。

・生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。
・利用者の個別性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。
・対象利用者を決め、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報を収集し整理し、ICF の考え方に基づいた介護過程の第 1 段階を身に付ける。

到達目標

・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。
・利用者のニーズを充足するための情報の収集ができる。
・医療・看護との連携の方法について学ぶ。
・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

授業計画

【後期】

15 日間（120 時間）の実習内容は 15 日間を通して具体的に学習する内容は下記の通りである。

（1）実習施設の概要を理解する。
（2）職員の構成と職務内容を理解する。
（3）利用者の日常生活を理解する。
（4）介護職の役割を理解する。
（5）基本的な日常生活援助を理解する。
（6）利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
（7）指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
（8）職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
（9）健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。
(10) レクリエーションを企画し、実践する。
(11) 指導者の監督・指導のもとに、1 名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案するための情報収集を行う。

事前・事後学習の内容

(事前学習として)

・ICF の視点に基づいた介護過程の段階と情報収集の意味を理解する。
・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。
・配属された実習施設の理解を図る。
・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

(事後学習として)

・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習や次回の実習での課題を明らかにする。

評価の方法・基準

・①実習前の提出物(20%)、②実習日誌(20%)、③実習に対する姿勢(20%)、④実習での学び(20%)、⑤実習指導者による実習評価(20%)を本校で総合的に評価する。

教科書

・2026 年度介護実習要綱

備考

授業科目	発達と老化の理解			担当者	香川　満子		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

・人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化および老化が生活に及ぼす影響について理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎知識を学習する。

到達目標

・介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得することができる。
・成長・発達の観点から老化を理解し、老化にともなう心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得できる。

授業計画

【前期】

1．オリエンテーション
2．成長・発達とは、成長・発達の原則・法則
3．発達段階と発達理論、発達課題
4．　〃
5．人間の成長・発達　①胎生期
6．　〃　②幼児期
7．　〃　③学童期
8．　〃　④青年期
9．　〃　⑤老年期
10．老化とは
11．老年期の発達課題
12．老年期をめぐる課題
13．老化にともなう身体的変化
14．　〃
15．まとめ

【後期】

16．老化にともなう心理的変化
17．老化にともなう社会的変化
18．高齢者と健康
19．高齢者に多い症状・疾患の特徴
20．高齢者に多い疾患と症状①骨格・筋系
21．　〃　②　〃
22．　〃　③脳・神経系、感覚系
23．　〃　④循環器系
24．　〃　⑤呼吸器系
25．　〃　⑥消化器系、泌尿器系
26．　〃　⑦内分泌・代謝系
27．　〃　⑧口腔疾患、悪性腫瘍
28．　〃　⑨感染症・精神疾患
29．　〃　⑩その他
30．まとめ

事前・事後学習の内容

・グループワークに積極的に参加する。
・テキストを熟読する。
・授業始めに前回の授業内容の設問を行うので復習する。

評価の方法・基準

・筆記試験（80%）　提出物（10%）　出席状況・授業態度（10%）

教科書

・「発達と老化の理解」（中央法規出版）

備考

授業科目	認知症の理解Ⅰ			担当者	香川　満子		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

到達目標

・認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く社会的環境について理解できる。
・医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾患及び段階の応じた心身の変化や心理状態を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できるようにする。

授業計画

【後期】

1．認知症とは何か
2．脳のしくみ
3．認知症の人の心理
4．中核症状、生活障害の理解
5．ＢＰＳＤの理解
6．認知症の診断と重症度
7．認知症の原因疾患と症状・生活障害①
8．　〃　②
9．　〃　③
10. 認知症の治療薬と予防
11. 認知症の人を取り巻く状況
12. 認知症ケアの理念と視点
13. 認知症当事者の視点から見えるもの
14. まとめ①
15. 〃 ②

事前・事後学習の内容

・グループワークに積極的に参加する。
・テキストを熟読する。
・前回授業の設問を行うので復習する。

評価の方法・基準

・筆記試験(80%)　提出物(10%)　出欠状況・授業態度（10%)

教科書

・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	障害の理解			担当者	小田 卓		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解し、本人や家族も含めた介護上の留意点について学習する。また、介護現場で重要となる自立に向けた生活支援ができるよう、生活に視点を置いた基本的な支援方法について学ぶ。

また、家族支援のあり方や多職種との連携・協働について学習する。

到達目標

・障害者の法的定義について説明できる。
・障害のある人に対する介護の基本的視点について説明できる。
（自己決定、エンパワメント、権利擁護、ICF）
・障害の原因や代表的な障害の病態について説明できる。
・障害がもたらす日常生活への影響について説明できる。
・障害がもたらす心理面への影響について説明できる。
・障害の概念を知り、障害福祉について興味、関心を持つことができるようにする。

授業計画

【前期】

１．障害のある人の暮らし　成年後見制度
２．わが国における障害者の法的定義
３．リハビリテーションの意味と理念、目的
４．障害のある人の自己決定
５．エンパワメント
６．権利擁護
７．視覚障害のある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
８．聴覚・言語障害、重複障害
９．運動機能障害
10．知的障害、発達障害
11．精神障害
12．高次脳機能障害
13．重症心身障害
14．心臓機能障害
15．まとめ

【後期】

16．腎機能障害　ある人の医学的・心理的・生活の理解と介護上の留意点
17．呼吸機能障害
18．膀胱・直腸機能障害
19．免疫機能障害
20．肝臓機能障害
21．難病
22．社会資源の利用と開発①
23．　〃　②
24．福祉機器
25．居宅支援と自立
26．家族支援の視点
27．家族の状態の把握と介護負担の軽減
28．多職種との連携
29．地域におけるサポート体制
30．まとめ

※1～6 までは障害の歴史を学びながら障害の概念、制度等の理解を深める。

事前・事後学習の内容

・板書やスライドで表示した内容はノートにとる。
・教科書や科目に関連する書籍を読んでみる。

評価の方法・基準

・出席状況、授業態度（20%）提出物（10%）試験総合得点（70%）で評価

教科書

・『障害の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅠ			担当者	樋口　富枝		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護１年	時間数 （単位数）	６０ （2）

授業の目的・内容

介護を必要とする人の生活支援を行うため、支援する側とされる側、双方にとって根拠のある介護実践を行うために必要な身体的・心理的・社会的側面を総合的に捉えるための基本的な知識を理解する。また、人間の心理、人体の構造と機能、生命が維持できている徴候と観察についての基本的な知識を身につけることを目指す。

到達目標

人体の機能と構造についての理解

・人間が活動する上で必要な心理について説明できる。
・生命徴候は何かを説明し、測定方法について説明、実施できる。
・生活支援技術への応用をイメージできる。
・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1．こころとからだのしくみの必要性
2．健康とは何か
3．人間の欲求とは何か
4．自己概念
5．自己実現と尊厳
6．こころのしくみ
7．学習・記憶・思考のしくみ
8．感情のしくみ
9．意欲・動機付けのしくみ
10．適応と適応機制
11．ストレスとストレスマネジメント
12．生命維持するしくみ
13．自律神経とは
14．前期の復習
15．まとめ
16．生命を維持する徴候
17．バイタルサインの観察法の演習
18．からだづくりの理解、人体の構造と機能
19．細胞・遺伝
20．脳・神経
21．感覚器
22．呼吸器
23．循環器
24．消化器
25．泌尿器
26．骨・関節・筋肉
27．生殖器・内分泌
28．血液・体液・リンパ液
29．後期の復習
30．まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合があります。

事前・事後学習の内容

・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。

評価の方法・基準

・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60 点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書・参考書

・『こころとからだのしくみ』（中央法規）
・『合格ドリル』（中央法規）

備考

授業科目	医療的ケアⅠ			担当者	樋口　富枝		実務経験
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	30（1）

授業の目的・内容

医療的ケア実施基礎として、医療的ケアとはどういうものか、また、介護福祉士が喀痰吸引や経管栄養の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について学ぶ。

到達目標

・福祉の専門職として医療的ケアに携わるために関連する制度の概念、社会背景等について説明できる。
・医療的ケアに関連する法制度や医療倫理について理解することができる。
・感染予防および健康状態の把握など医療的ケアを安全・適切に実施するうえでの内容を説明できる。

授業計画

【後期】

1．なぜ医療的ケアを学ぶのか
2．医行為とは(法律的な理解)
3．チーム医療
4．医療の倫理と個人の尊厳の自立
5．喀痰吸引等制度
6．医療的ケアと喀痰吸引等の背景
7．その他の制度
8．喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
9．救急蘇生法
10．清潔保持と感染予防
11．療養環境の清潔、消毒法
12．健康状態の把握
13．急変状態について
14．復習
15．まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。
・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

・授業態度（出欠席・取り組み・課題)、筆記試験（60 点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
・授業態度（20%)、筆記試験（80%）
※100%の出席率が必要な科目である

教科書

・『医療的ケア』(中央法規)

備考

授業科目	ITリテラシー			担当者	椿　幸治		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護1年	時間数（単位数）	60（2）

授業の目的・内容

現代社会で必要となるパソコン技術（タッチタイピングや文書作成）や情報社会を生き抜いていくために必要な情報モラルを学習する。また、パソコンやスマートフォンを用いた新聞作成や動画作成、SNSを活用した広報手法を学び、介護現場で求められる様々な要望に応えられるIT技術を身につける。

到達目標

・情報社会に必要な情報モラルを理解する。
・実習報告会の資料をWordやPowerPointで作成し、発表する。
・パソコンやスマートフォンを活用した新聞、動画作成を行い、発信する能力を身につける。
・日本情報処理検定の日本語ワープロ検定試験、文章入力スピード認定試験の4級以上を取得する。

授業計画

【前期】

1．Teamsの導入とオリエンテーション
2．パソコンの基本的な使い方
3．Word基本的な使い方　①
4．　〃　②
5．　〃　③
6．PowerPoint基本的な使い方　①
7．　〃　②
8．　〃　③
9．自己紹介新聞の作成　①
10．　〃　②
11．　〃　③
12．スマートフォンの活用法
13．SNSの取り扱い方
14．社会貢献活動および学校生活新聞作成①
15．グループ発表①

【後期】

16．デザインツールCanvaの使い方①
17．社会貢献活動および学校生活新聞作成②
18．グループ発表②
19．デザインツールCanvaの使い方②
20．社会貢献活動および学校生活新聞作成③
21．グループ発表③
22．タイピング練習
23．社会貢献活動および学校生活新聞作成④
24．グループ発表④
25．タイピング実技
26．社会貢献活動および学校生活新聞作成⑤
27．グループ発表⑤
28．高齢者における情報トラブル
29．社会貢献活動および学校生活新聞作成⑥
30．グループ発表⑥

事前・事後学習の内容

・授業で行った演習を復習する。
・課題に必要な資料（写真、動画）を事前に収集し、作成する。

評価の方法・基準

・出席状況を含む授業態度（20%）、実技および発表（40%）、制作物（40%）により評価

教科書

・『イチからしっかり学ぶ！学生のための　Office基礎と情報モラル』（noa出版）

備考

授業科目	福祉用具とＩＣＴ技術			担当者	角南　拓磨		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護１年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

専門職より指導を受け、福祉用具の考え方や最新の福祉用・ＩＣＴ機器の種類や活用方法を学ぶ。

到達目標

・介護福祉士に必要な福祉用具とＩＣＴ技術の知識を習得することで、個々の利用者に適した福祉用具の選定の視点を持つことができる。
・福祉・介護業界の生産性向上に向けた知識・技術を身につけることができる。

授業計画

【後期】

１．福祉用具についての総論
２．福祉用具フェア参加　①
３．　〃　②
４．ベッドについて（組立て解体）
５．ベッド回りについて　①
６．　〃　②
７．移動について　①
８．　〃　②
９．住環境整備について
10．福祉用具のメンテナンスについて
11．福祉用具の選定・住環境について
12．福祉機器の利活用（実技）
13．介護ロボット・ICT 総論
14．介護現場の ICT 機器導入について（介護記録ソフト）
15．今後介護現場で必要になる福祉用具について

事前・事後学習の内容

・授業終了時、プリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

・授業態度・出席状況（20%）、プレゼンテーション内容（80%）で評価

教科書

・『最新介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）
・『最新介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ』（中央法規出版）

備考

２年

カリキュラム・マップ（介護福祉学科）

2025年度入学生用

＜ディプロマ・ポリシー（DP）＞

1）介護を必要とする方々に関わるために、介護福祉士として必要な**専門的知識と技能(DP1)**を身に付ける。
2）多職種連携や地域連携、個別援助計画を実践していくための**思考力と実践力(DP2)**を身に付ける。
3）自分が所属する様々なチームを**マネジメントできる知識と技術(DP3)**を身に付ける。
4）人から求められる**人間性と態度(DP4)**を身に付ける。

区分		履修科目名	履修学年	履修時間	単位	DP1	DP2	DP3	DP4
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	1	30	1	○			◎
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーション	1	30	1	○			◎
		チームマネジメント	1	30	1	○		◎	○
	社会の理解	社会の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		
		社会の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○		
	選択科目	社会貢献活動Ⅰ	1	90	2		◎	○	○
		社会貢献活動Ⅱ	2	90	2		○	◎	○
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	1	60	2	◎	○		○
		介護の基本Ⅱ	2	30	1	◎	○		○
		介護の基本Ⅲ	2	60	2	◎	○		○
		介護の基本Ⅳ	2	30	1	◎	○		○
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術	1	60	2	◎		○	○
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	1	30	1	◎			
		生活支援技術Ⅱ	1	120	3	◎	○	○	○
		生活支援技術Ⅲ	2	120	3	◎	○	○	○
		在宅生活支援	2	60	2	◎	◎	○	○
	介護過程	介護過程Ⅰ	1	60	2	○	◎		
		介護過程Ⅱ－①	1	30	1	○	◎	○	○
		介護過程Ⅱ－②	2	30	1	○	◎	○	○
		介護過程Ⅲ	2	30	1	○	◎		
	介護総合演習	介護総合演習Ⅰ	1	30	1	◎			○
		介護総合演習Ⅱ－①	1	30	1	◎	○		○
		介護総合演習Ⅱ－②	2	30	1	◎	○		○
		介護総合演習Ⅲ	2	30	1	○	◎		○
	介護実習	介護実習Ⅰ－①	1	80	2	◎		○	○
		介護実習Ⅰ－②	2	50	1	◎		○	○
		介護実習Ⅱ－①	1	120	3	◎		○	○
		介護実習Ⅱ－②	2	200	5	◎	○	○	○
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解	1	60	2	◎	○		
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	1	30	1	◎	○		○
		認知症の理解Ⅱ	2	30	1	◎	○		○
	障害の理解	障害の理解	1	60	2	◎	○		○
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	1	60	2	◎	○		○
		こころとからだのしくみⅡ	2	60	2	◎	○		○
医療的ケア		医療的ケアⅠ	1	30	1	◎	○		
		医療的ケアⅡ	2	60	2	◎	○		○
		医療的ケアⅢ	2	30	1	◎	○		○
その他		ＩＴリテラシーⅠ	1	30	1	◎	○	○	
		ＩＴリテラシーⅡ	2	30	1	◎	○	○	
		福祉用具とICT技術	1	60	2	◎	◎	○	○
		国家試験対策	2	60	2	◎			
		介護特論	2	30	1				◎
					◎の科目数	31	8	2	3
					○の科目数	8	23	14	29

◎：科目の到達目標が該当のDPに直結する科目（各科目１つのみ◎をつける）
○：科目の到達目標が該当のDPに関連する科目（各科目複数の○をつけてもよい）

授業科目	社会の理解Ⅱ			担当者	鹿見　勇輔		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護2年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

「社会の理解Ⅰ」を踏まえて、社会保障制度が私達の生活にとっていかに重要な役割を果たしているのかを検討する。本授業では、近年の社会状況の変化や社会保障制度の動向に興味・関心を持ち、社会問題や課題に対する解決策を提案できるようになることを目的とする。

到達目標

・社会保障制度を体系的に考えることができる。
・社会的弱者の立場に立って、制度・政策を考えることができる。

授業計画

【後期】

１．オリエンテーション
２．個人・家族、地域社会・行政組織
３．人間の尊厳と人権
４．権利擁護
５．虐待
６．社会保障制度の概要
７．医療保険制度
８．年金保険制度
９．雇用保険制度、労働者災害補償保険制度
10．介護保険制度
11．社会福祉法関連
12．生活保護、社会手当
13．高齢者福祉
14．障害者福祉、障害者総合支援法
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・授業テーマに関連した社会問題等に関心を持ち、自分の考えを持って臨むこと。
・復習は、教科書や記録したノートを整理すること。

評価の方法・基準

・①出席状況（40%）、②授業態度（10%）、③期末試験（50%）を合わせて評価する。

教科書

・介護福祉士養成講座編集委員（2022）『最新 介護福祉士養成講座２ 社会の理解 第２版』中央法規

備考

・講師の介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、主任介護支援専門員等の福祉・介護現場での経験を活かし、様々な事例を用いて実践的な講義や演習を行う。

授業科目	社会貢献活動Ⅱ			担当者	介護福祉学科教員		実務経験
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	９０（２）

授業の目的・内容

養成校の近隣地域や福祉施設での貢献活動を通して、対象者の生活や地域の課題に対して介護福祉士としての役割を実践的に学ぶ。

到達目標

・リーダーシップとフォロワーシップを実践的に学び、チームをマネジメントする力が持てる。
・対象者の生活を支えるための実践力を身につける。
・対象者が住み慣れた地域での生活を継続するための制度や施策について学ぶことができる。

授業計画

【前期】

１．目的理解
２．導入講座
３．グループでの活動検討
４．貢献活動①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．　〃　⑤
９．中間振り返り
10．貢献活動⑥
11．　〃　⑦
12．　〃　⑧
13．　〃　⑨
14．　〃　⑩
15．振り返り

【後期】

16．貢献活動⑪
17．　〃　⑫
18．　〃　⑬
19．　〃　⑭
20．　〃　⑮
21．中間振り返り
22．貢献活動⑯
23．　〃　⑰
24．　〃　⑱
25．　〃　⑲
26．　〃　⑳
27．活動報告会準備①
28．　〃　②
29．　〃　③
30．活動報告会

事前・事後学習の内容

・活動前に必ず活動内容、役割分担を理解しておくこと

評価の方法・基準

・活動への出席状況（50%）、取り組み態度（50%）

教科書

・なし

備考

授業科目	介護の基本Ⅱ			担　当　者	香川　寛		実務経験
履修方法	講義	期　　間	前期	学科・学年	介護２年	時　間　数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

介護を必要とする人の理解を深め、自立支援に向けた支援方法を学び、介護予防やリハビリテーションの必要性を理解する。

到達目標

・介護福祉士の役割や機能を説明できる。
・介護を実践する上で、リハビリテーションの必要性や他専門職との協働の考え方を理解できる。
・ＩＣＦの視点を理解し、介護予防の必要性を理解できる。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション&プロとは
２．リハビリテーションとその実際
３．ノーマライゼーションとＩＣＦ
４．介護現場での二次障害
５．自立支援とリハビリテーションケア
６．リハビリ的立位と移乗
７．リハビリ的座位と姿勢管理
８．リハビリ的起き上がり
９．腰痛予防とスライディングボードでの移乗
10．褥瘡ケアとハンドリング
11．福祉用具でのベッド上移動　①
12．　　〃　　②
13．介護予防と福祉用具の活用
14．人権擁護と虐待
15．リハビリテーションのための目標志向アプローチ

事前・事後学習の内容

・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし復習する。

評価の方法・基準

・レポート(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

・『介護の基本Ⅰ』(中央法規出版)
・必要資料は適宜配布する。

備考

授業科目	介護の基本Ⅲ			担当者	梅田　光希		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	６０（２）

授業の目的・内容

介護を必要とする人への理解を深め、様々なサービスの概要を理解し、実際の生活支援を考える。災害時においての介護福祉士の役割について理解を深め、介護福祉士として災害時に必要な知識と技術を養う。また、介護職の心身と共に健康管理の方法についても学習し、自己コントロールができるように学習する

到達目標

・介護保険制度・障害者総合支援法におけるサービス等の種類、内容について説明できる。
・利用者を支援する様々な専門職種、地域の関係機関の機能と役割について説明できる。
・介護における安全確保とリスクマネジメントの必要性について述べることができ、具体的な事故と予防策について、実践例をもとに考えを述べることができる。
・災害時における介護福祉士の役割が理解できる。
・介護職の健康管理の必要性が理解できる

授業計画

【前期】

１．フォーマルサービス・インフォーマルサービス
２．高齢者のためのフォーマルサービス
３．介護保険制度におけるサービスの種類（居宅）
４．　〃　（施設、地域密着）
５．　〃　（地域支援事業）
６．振り返り
７．障害者のためのフォーマルサービス
８．地域福祉に関わる組織・団体
９．住み慣れた地域でいつまでも暮らすために①
10．　〃　②
11．災害時の介護福祉士の役割
12．災害時の支援の実際①
13．　〃　②
14．労働環境の整備
15．まとめ

【後期】

16．介護における安全の確保
17．リスクマネジメントとは何か
18．リスクマネジメント（身体拘束）
19．危険予知トレーニング
20．介護職に必要な感染に対する知識①
21．　〃　②
22．介護職の健康管理（ストレスマネジメント）①
23．　〃　②
24．介護職の健康管理（アンガーマネジメント）①
25．　〃　②
26．労働環境の整備①
27．　〃　②
28．介護福祉士会とその活動
29　振り返り
30．全体のまとめ

事前・事後学習の内容

・授業終了後、配布したプリントや資料をファイリングし予習、復習する。

評価の方法・基準

・筆記試験(80%)、授業態度(20%)

教科書

・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版)、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）

備考

・介護施設で介護職として勤務した経験を持つ教員が、介護サービスや障害者サービスの特性や実際、介護福祉士に必要なリスクマネジメントや労働環境の整備について解説する。
・特別講師による授業も含む。

授業科目	介護の基本Ⅳ			担当者	吉岡　俊昭		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	後期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

介護福祉士に求められる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得し、介護福祉士として正しい判断ができるように行動できるようになる。また職能団体の意味を理解し、自分の資格を自分で守り、高めることの必要性について理解する

到達目標

・介護福祉士の倫理について理解し実践できる
・職能団体を理解し、自分の資格を守り高めていくことの必要性が理解できる
・介護福祉士の可能性を自分でイメージできるようになる

授業計画

【後期】

１．介護福祉士の倫理
２．介護倫理と虐待
３．虐待につながる不適切ケア①
４．　〃　②
５．　〃　③
６．介護福祉士を支える団体①
７．　〃　②
８．日本介護福祉士会倫理綱領
９．尊厳を保持した倫理的介護の実践①
10．　〃　②
11．介護福祉士の可能性①
12．　〃　②
13．　〃　③
14．介護福祉士とは
15．全体のまとめ

事前・事後学習の内容

・授業終了時、プリントや資料（授業で使用したもの）をきちんとファイリングし復習する。

評価の方法・基準

・筆記試験(60%)、出席状況、授業時の態度、グループワーク等の取り組み、課題の提出等(40%)について評価する。

教科書

・『介護の基本Ⅰ』（中央法規出版)、『介護の基本Ⅱ』（中央法規出版）　・必要資料は適宜配布する。

備考

介護施設で介護職に従事、職能団体で役員を務める経験を持つ教員が、介護の倫理や職能団体について解説し、これから求められる介護福祉士の役割や機能について学びを深める

ゲスト講師による授業あり

授業科目	生活支援技術Ⅲ			担当者	吉岡　俊昭 寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	実習	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	１２０ （３）

授業の目的・内容

尊厳保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。

到達目標

・尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出すことや、見守ることも含めた適切な介護が提供できるために必要な知識や技術を習得し、介護実践に活用できる。

授業計画

【前期】

1．様々な障害者の生活と理解
2．障害や状況に応じた移動・移乗の方法
3．〃　ポジショニング
4．〃　食事介護の方法
5．〃　口腔ケア（歯科医師）
6．〃　排泄介護の方法
7．〃　入浴介護の方法①
8．〃　〃　②
9．〃　整容介護の方法
10．介護福祉士に必要な薬の知識
11．福祉用具・介護ロボット・ICT 機器見学
12．緊急時の対応と感染予防
13．終末期における介護の意義と目的（エンゼルケア）
14．終末期におけるグリーフケア（入棺体験）
15．視覚障害・聴覚障害に応じた介護

【後期】

16．前期の振り返り
17．事例検討 A 適切なケア①
18．〃　②
19．〃　③
20．事例検討 B 適切なケア①
21．〃　②
22．〃　③
23．事例検討 C 適切なケア①
24．〃　②
25．〃　③
26．ケアコンテスト
27　外部事例研修大会
28　レクリエーション①
29．〃　②
30．　まとめ

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。

評価の方法・基準

・試験(80%)、授業への参加度・発言の積極性(20%)

教科書

・『生活支援技術Ⅱ・Ⅲ』（中央法規出版）
・『本人の視点に基づく介護技術ハンドブック』
・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護福祉職に従事した経験を持つ教員が、障害に応じ、利用者の潜在能力を引き出し、安全に援助できる技術を解説する。

訪問入浴業所、棺桶屋、福祉用具事業所、歯科医師による授業あり

授業科目	在宅生活支援			担当者	斎木　亜子		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	６０（2）

授業の目的・内容

介護福祉士として、自立に向けた生活支援（家事支援）をするうえで必要な知識と技術を習得する。

到達目標

・衣と住に関する基本的な知識と技術を身につけ、利用者の自立に向けた生活を支援（家事支援）することができる。

授業計画

【前期】

１．訪問介護とは
２．訪問介護で必要な接遇マナー（接遇マナーと事故防止、クレーム対応）
３．生活援助 ①掃除
４．　〃　②洗濯
５．　〃　③買い物（代行）
６．　〃　④調理
７．　〃　⑤調理
８．外出支援（通院・買い物）
９．自立生活支援・重度化防止のための見守り的援助
10．訪問介護の実際 ①（高齢者支援）
11．　〃　②（高齢者支援）
12．　〃　③（障害者支援）
13．　〃　④（障害者支援）
14．まとめ①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・事前に授業範囲の教科書を読んでおく。
・日々の生活の中で、学んだ家事技術を実践し、身につける。

評価の方法・基準

・筆記試験（30%）、演習レポート・実技（50%）、出席（20%）

教科書

・『最新介護福祉士養成講座６　生活支援技術Ⅰ』（中央法規出版）
・『イラストでわかる 13 歳から自立できる家事の基本』（PHP 研究所）

備考

授業科目	介護過程Ⅱ-②			担当者	梅田　光希		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

他の科目で習得した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。

到達目標

・実習Ⅱ-①で情報収集した利用者のアセスメントと計画の立案を行うことができる。
・実習Ⅱ-②で実施するカンファレンスを模擬的に行い、根拠をもとに立案した個別援助計画の説明ができる。
・評価・修正の目的と方法を理解できる。

授業計画

【前期】

１．介護過程の実践的展開
２．「アセスメント」の実際　「情報の解釈・関連づけ・統合化」　事例１　①
３．　〃　②
４．　〃　「課題の明確化」　事例１
５．　〃　「個別援助計画」の立案　事例１
６．カンファレンス①
７．　〃　②
８．「アセスメント」の実際　「情報の解釈・関連づけ・統合化」　事例２　①
９．　〃　②
10．　〃　「課題の明確化」　事例２
11．　〃　「個別援助計画」の立案　事例２
12．カンファレンス①
13．　〃　②
14．個別援助計画の修正
15．　〃　評価

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・提出物(80%)、カンファレンス取り組み状況(20%)

教科書

・『介護過程』（中央法規出版）
・必要資料は適宜配付する。

備考

介護施設で介護職・介護支援専門員に従事した経験を持つ教員が、アセスメント方法から個別援助計画の立案・実施・評価について解説する。

授業科目	介護過程Ⅲ			担当者	寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

チームアプローチにおける介護福祉士の役割とその重要性を理解し、チームアプローチによる利用者支援の実際について理解を深める。また、実習で行った介護過程から、「生活することの意味」「人生の尊さ」「介護福祉士としての仕事の魅力」などを学ぶ。

到達目標

・実習で取り組んだ介護過程をまとめ発表することができる。
・介護過程とケアマネジメントの関係性を理解できる。
・チームアプローチにおける介護福祉士の役割が理解できる。

授業計画

【後期】

１．利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開の振り返り
２．介護過程とチームアプローチ（介護過程とケアマネジメントの関係性）
３．　〃　（チームアプローチにおける介護福祉士の役割）
４．事例検討①
５．　〃　②
６．　〃　③
７．　〃　④
８．介護福祉士の仕事の魅力①
９．　〃　②
10．　〃　③
11．　〃　④
12．実習取り組んだ介護過程のまとめ①
13．　〃　②
14．　〃　③
15．　〃　④

事前・事後学習の内容

・授業で行った内容を振り返る。

評価の方法・基準

・出欠の状況(10%)、授業態度(20%)、事例研究内容(70%)

教科書

・『介護過程』（中央法規出版）

備考

介護施設で介護職と介護支援門員に従事した経験を持つ教員が、チームアプローチについて解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅱ-②			担当者	寺藤　美喜子		実務経験 ○
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

実習の教育効果をあげるため、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力などについて総合的な学習を行う。実習モデルに基づきながら実習Ⅱの目的と目標について学ぶ。演習課題に取り組み、介護過程を中心とした知識・技術、多職種協働の視点を学ぶ。

到達目標

・介護実習Ⅱ－①を振り返り、介護実習Ⅱ－②の課題が理解できる。
・介護実習に向けて、実習個人票や実習目標などの作成ができる。
・介護実習Ⅱ－②に向けて、より良い実習を目指した事前取組ができる。
・介護実習Ⅱ－②に必要な基本的な知識の整理ができ、資料作りができる。
・担当利用者のアセスメントと個別援助計画の作成ができる。
・実習報告会を通して、自分自身の今後の課題が理解できる。

授業計画

【前期】

１．実習Ⅱ－①の振り返り
２．介護実習Ⅱ－②について
３．実習Ⅱ－②のねらいと実習モデル①
４．　〃　②
５．介護技術を軸にした介護実習　「実習日誌」①
６．　〃　②
７．　〃　③
８．実習前準備　「実習施設」
９．　〃　「個人票」
10．　〃　「個人目標」
11．実習前指導
12．実習中間指導①
13．　〃　②
14．実習報告会①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・復習を行うこと。評価方法にもあるように、演習課題の達成度と提出状況も評価対象であるため、授業の進捗状況に合わせ、演習課題が行えるようにしておく。

評価の方法・基準

・提出物（90%）、授業態度（10%）

教科書

・プリント配布

備考

介護施設で介護福祉士実習指導者に従事した経験を持つ職員が、実習Ⅱに必要な知識や技術を解説する。

授業科目	介護総合演習Ⅲ			担当者	梅田　光希		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護２年	時間数（単位数）	３０（１）

授業の目的・内容

前半は文献研究の進め方を学び、介護福祉士として求められる事例研究に必要な知識と技術を身に付ける。後半は介護実習で実施した介護過程の展開を、事例研究としてまとめ発表する。

到達目標

・介護実習で得た事例をもとに、事例研究としてまとめることができる。
・事例研究としてまとめた成果物を発表用のスライドにすることができる。
・発表用のスライドと原稿をもとに、時間内で発表することができる。
・事例研究発表の方法や手順を理解し実践することができる。

授業計画

【後期】

１．事例研究概要報告書の作成
２．事例研究概要 Word 作成①
３．　〃　②（担当教員に指導を受け、研究概要を完成する）
４．　〃　③
５．　〃　④
６．事例研究 Power Point 作成 ①（発表原稿の作成を含める）
７．　〃　②（　〃　）
８．　〃　③（アニメーション、発表原稿の作成を含める）
９．　〃　④（　〃　）
10. 事例研究発表リハーサル（個別リハーサル、Power Point と発表原稿の修正）
11. 事例研究発表①
12. 〃　②
13. 〃　③
14. 〃　④
15. 〃　⑤

事前・事後学習の内容

・事例研究の原稿・発表用スライド・発表原稿の作成
・発表のリハーサル

評価の方法・基準

・事例研究概要と Power Point の出来栄え(50%)、事例研究発表の内容(50%)で総合評価を行う
※授業以外の時間に担当教員の指導を受けながら Power Point と発表原稿の修正を各自行い、リハーサルと研究発表に間に合わせること。また、パソコン教室の使用状況、事例研究発表の状況によって、授業時間を同日に複数時間とることがあるので欠席には十分気を付けること。
※Word、PowerPoint の指導を各担当教員から受け、提出期限までに仕上げること。

教科書

・プリント配布

備考

授業科目	介護実習Ⅰ-②			担　当　者	吉岡　俊昭		実務経験
履修方法	実習	期　　間	前期	学科・学年	介護２年	時　間　数 （単位数）	５０ （１）

授業の目的・内容

①7 日間（56 時間）の介護実習を行う。

②在宅で生活している利用者の居住環境と日常生活を知り、訪問介護や小規模多機能型居宅介護の一般的・特殊的役割について理解する。

③これまで培った介護知識と技術を活用し、在宅で生活している利用者の日常生活援助ができる。

④介護福祉の目的のひとつが、地域で生活している利用者の生活援助の推進を図ることであることを理解する。

⑤地域で生活している人たちの自助グループや、それらを支援する地域組織や団体について理解し、共に生きる福祉のまちづくりについて理解する。

到達目標

・実習事業所の概要を理解する。

・在宅で生活する利用者がどのような暮らしを送り、そこの暮らしに介護職がどのように関わっているのかを学ぶ。

・在宅で生活する利用者に関わる各専門職の役割と連携方法を学ぶ。

授業計画

【前期】

7 日間（56 時間）の実習内容は下記の通りである。

（1）実習施設の概要を理解する。

（2）職員の構成と職務内容を理解する。

（3）在宅で生活している利用者の日常生活を理解する。

（4）介護職の役割を理解する。

（5）基本的な在宅の日常生活援助を理解する。

（6）実習指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。

（7）地域生活の積み重ねを通して、人々の生活歴と成育歴が形成され、価値と習慣を有する固有の存在として主体的に生きる人間が育まれていることを理解する。

（8）介護事業所は、地域にある社会資源のひとつであり、地域社会との関わりと様々な社会資源との連携と協働によって事業を行っていることを理解する。

（9）地域にある介護事業所などの社会資源を理解し、それらが地域住民の生活を支えていることを理解する。

事前・事後学習の内容

（事前学習として）

・訪問介護、小規模多機能型居宅介護のサービス内容について理解する。

・配属された事業所の理解を図る。

（事後学習として）

・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

・在宅実習での学びから、施設で生活している人たちにどのような支援をする視点が必要かを考える。

評価の方法・基準

①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、
④実習での学び（20%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

・2026 年度　介護実習要綱

備考

授業科目	介護実習Ⅱ-②			担　当　者	吉岡　俊昭		実務経験
履修方法	実習	期　　間	後期	学科・学年	介護２年	時　間　数 （単位数）	２００ （５）

授業の目的・内容

①25 日間（200 時間）の介護実習を行う。

②生活支援技術が必要な高齢者や障がい者が生活している施設での実習を通して、介護支援が必要な利用者の身体・生活状況を理解し、利用者を支援する生活支援技術を学び実施する。

③利用者の個別性を理解しながら、自ら考察しながら根拠に基づいた介護実践できる基礎力を身に付ける。

④対象利用者を決め、ＩＣＦの考え方に基づき、心理・精神・身体・社会・生活面など多面的に利用者の情報の収集、アセスメント、個別援助計画の作成、実施、評価を行う。

到達目標

・利用者の状態について観察し、正しく記録できる。

・利用者の障害レベルに応じて求められる生活支援技術が実践できる。

・利用者のニーズを充足するための情報収集、アセスメント、個別援助計画の作成ができる。

・個別援助計画に沿った介護支援を実施し、評価することができる。

・処遇全般についてチームの一員として理解するとともに、医療・看護との連携の方法について学ぶ。

授業計画

【前期】

25 日間（200 時間）の実習内容は下記の通りである。

（1）実習施設の概要を理解する。
（2）職員の構成と職務内容を理解する。
（3）利用者の日常生活を理解する。
（4）介護職の役割を理解する。
（5）基本的な日常生活援助を理解する。
（6）利用者とのコミュニケーション技術を学ぶ。
（7）指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活援助の仕方を学ぶ。
（8）職務内容および職員間のチームワークのあり方を学ぶ。
（9）健康管理援助（予防的介護）の仕方を学ぶ。
(10) レクリエーションを企画し、実践する。
(11) 指導者の監督・指導のもとに、１名の利用者を受け持ち、個別援助計画を立案・実施・評価する。
(12) カンファレンスに参加し、多職種協働の重要性を理解する。
(13) 夜間勤務を１回経験し、指導者の指示により夜間の業務内容および利用者の状態を理解する。
(14) 指導者の監督・指導のもとに、終末期の一部を見学する。

（機会があれば）

事前・事後学習の内容

（事前学習として）

・ＩＣＦの視点に基づいた介護過程の段階である情報収集、アセスメント、個別援助計画の意味を理解する。

・生活支援が必要な利用者の心理・精神的・身体的な特徴と、疾病や障がいについて理解する。

・配属された実習施設の理解を図る。　・レクリエーションの計画作成と展開方法を学習する。

（事後学習として）

・実習日誌による振り返りや指導を受け、介護職員として必要な視点を養う。また、実習中の中間・最終の振り返りによって、実習を振り返り、今後の学内での学習の課題を明らかにする。

評価の方法・基準

①実習前の提出物（10%）、②実習日誌（10%）、③実習に対する姿勢（10%）、④実習での学び（10%）、⑤アセスメント・個別援助計画・評価シート（10%）、実習指導者による実習評価（50%）を本校で総合的に評価する。

教科書

・2026 年度　介護実習要綱

備考

授業科目	認知症の理解Ⅱ			担当者	植　賀寿夫		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護2年	時間数（単位数）	３０（1）

授業の目的・内容

認知症のある人の特性を理解し、パーソン・センタード・ケアに基づく理論と実践方法を学ぶ。本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。

到達目標

・認知症の人の認知機能の変化が、どのように生活に影響しているかを理解し、生活を続けるために環境をどのように提供するかを考えることができる。
・認知症のステージに応じた介護について、介護職としてのかかわり方を説明できる。
・認知症の人が「その人らしく」暮らすために、地域の力や家族の力を活かす方法を考えることができる。

授業計画

【前期】

1．パーソン・センタード・ケア
2．アセスメントツール　センター方式
3．アセスメントツール　ひもときシート
4．認知症の人とのコミュニケーション
5．認知症の人へのケア①
6．　〃　②
7．ユマニチュード
8．バリデーション、回想法
9．終末期の人の医療と介護
10．環境づくり
11．家族への支援①
12．　〃　②
13．制度、サービス
14．多職種連携
15．まとめ

事前・事後学習の内容

・テキストの次回授業範囲を読んでおくこと。
・授業終了時に提示した課題を実施し、次回授業時に提出すること。
・社会資源のリサーチをしておくこと。

評価の方法・基準

・筆記試験（100%）

教科書

・『認知症の理解』（中央法規出版）

備考

授業科目	こころとからだのしくみⅡ			担当者	樋口　富枝		実務経験 ○
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	６０ （２）

根拠のある介護実践・日常生活支援を行うために必要な人体の機能と構造、心理について基礎的な知識を身につけることを目指す。得られた知識を介護実践に必要な情報収集やアセスメントを強化し、支援を必要とする人の状態にあった生活支援技術を提供できるよう役立てる。

到達目標

日常生活支援における心身の状態を理解できる

・移動、身じたく、食事、清潔保持、排泄、睡眠におけるこころとからだのしくみについて理解できる。
・生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。
・介護過程を展開するための情報収集、アセスメントについて関連づけることができる。

授業計画

【前期】

1．移動のしくみ
2．心身の機能低下が移動に及ぼす影響
3．機能低下・障害が移動に及ぼす影響
4．移動に関する変化の気づきと対応
5．身じたくのしくみ①
6．身じたくのしくみ②
7．心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響
8．身じたくに関する変化の気づきと対応
9．食事のしくみ
10．心身の機能低下が食事に及ぼす影響
11．食事に関連する変化の気づきと対応①
12．食事に関連する変化の気づきと対応②
13．休息・睡眠のしくみ
14．睡眠障害の種類、睡眠薬の種類
15．まとめ

【後期】

16．入浴・清潔保持のしくみ
17．機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響①
18．機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響②
19．入浴・清潔保持に関連する変化の気づきと対応
20．排泄のしくみ
21．心身の機能低下が排泄に及ぼす影響①
22．心身の機能低下が排泄に及ぼす影響②
23．排便に関連する変化の気づきと対応
24．人生の最終段階に関する「死」のとらえ方
25．「死」に対するこころの理解
26．終末期から危篤状態、死後のからだの理解
27．介護福祉職に必要な薬の知識
28．復習①国家試験対策
29．復習②国家試験対策
30．まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

・授業前に授業範囲のテキストに目を通し、授業の理解を深める。

評価の方法・基準

・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（60 点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
・授業態度（40%）、筆記試験（60%）

教科書・参考書

・『こころとからだのしくみ』（中央法規）
・『合格ドリル』（中央法規）

授業科目	医療的ケアⅡ			担当者	大野　雅世、 森山　薫、濵本　千春		実務経験
履修方法	講義	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	６０ （2）

授業の目的・内容

医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

到達目標

・根拠に基づく喀痰吸引・経管栄養の方法・留意点について説明できる。
・医療的ケア実施の際に予測される急変・事故、対応について理解し、安全確認ができる。
・基本的な救急蘇生法を説明、実施できる。

授業計画

【前期】

1．医療的ケアの復習、オリエンテーション
2．呼吸のしくみとはたらき
3．喀痰吸引の基礎的知識①
4．　〃　②
5．喀痰吸引の実施手順①
6．　〃　②
7．消化器系のしくみとはたらき
8．経管栄養の基礎的知識①
9．　〃　②
10．経管栄養の実施手順①
11．　〃　②
12．栄養剤に関する知識、実施上の留意点
13．現場での医療的ケアの実際
14．まとめ①
15．　〃　②

【後期】

16．救急蘇生法
17．心肺蘇生法①
18．　〃　②
19．医療的ケア急変・事故発生時の対応と連携①
20．　〃　②
21．清潔操作実施手順
22．清潔操作演習
23．家族支援①高齢者
24．　〃　②こども
25．医療的ケアの説明と同意
26．医療職との連携、記録の書き方
27．医療的ケア復習①国家試験対策
28．　〃　②国家試験対策
29．　〃　③国家試験対策
30．まとめ

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

・『COCOAR』の無料アプリを各自インストールし、授業前後に教科書と合わせて確認し、各自理解を深める。
・授業終了後、リアクションペーパー（課題）を記入し自己の習熟度を振り返り復習する。

評価の方法・基準

・授業態度（出欠席・取り組み・課題）、筆記試験（80 点以上が合格）などの結果を総合的に評価する。
・授業態度（20%）、筆記試験（80%）
※100%の出席率が必要な科目。前期の筆記試験に合格後、「医療的ケアⅢ(演習)」に進むことができる。

教科書

・『医療的ケア』（中央法規）

備考

授業科目	医療的ケアⅢ			担当者	大野　雅世、 森山　薫、濵本　千春		実務経験
履修方法	演習	期間	後期	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

「医療的ケア(講義)」が終了し筆記試験に合格後、実際にシミュレーターを用いて、喀痰吸引、経管栄養の演習を行う。実施手順に沿って安全・安楽に医療的ケアが実施できるようになることが目的である。

到達目標

・実施手順・方法を学び、シミュレーターを用いて「喀痰吸引」「経管栄養」の一連の動作を一人で実施でき、演習評価に合格できる。

授業計画

【後期】

１．口腔内吸引の手順の確認
２．口腔内吸引の演習①
３．　〃　②
４．鼻腔内吸引の手順の確認
５．鼻腔内吸引の演習①
６．　〃　②
７．気管内吸引の手順の確認
８．気管内吸引の演習①
９．　〃　②
10．経鼻経管栄養の手順の確認
11．経鼻経管栄養の演習①
12．　〃　②
13．胃ろうまたは腸ろう経管栄養の手順の確認
14．胃ろうまたは腸ろう経管栄養の演習①
15．　〃　②

※授業計画については、学生の知識の定着・習熟度などにより内容を変更する場合がある。

事前・事後学習の内容

・教科書の『COCOAR』無料アプリにて、実施手順や留意点を再復習しておく。
・技術面を磨くため練習が必須。実技試験にむけて自主的に練習を行うこと。

評価の方法・基準

・実技試験（100%）
※100%の出席率が必要な科目である。

教科書

・『医療的ケア』(中央法規)

備考

授業科目	ITリテラシーⅡ			担当者	椿　幸治		実務経験
履修方法	演習	期間	前期	学科・学年	介護2年	時間数（単位数）	30（1）

授業の目的・内容

社会貢献活動で学んだ内容を振り返ることで今までの問題点を解決していく問題解決能力の向上や実習報告会や後期の事例研究発表会に向けて原稿や発表資料の作成、興味を引きこむグループ発表を行う。

IT リテラシーⅠの社会貢献活動新聞や学校生活新聞を活用し SNS への展開、それぞれの現場に適した広報手法を学ぶ。

到達目標

・介護の現場に適した広報手法を活かし、SNS などで運用する。
・IT リテラシーⅠで学んだことを活かし発表の形式を自分たちで考える。

授業計画

【前期】

1．社会貢献活動について資料作り及び個人発表　①
2．　〃　②
3．社会貢献活動および学校生活新聞作成　①
4．動画編集及び作成　①
5．　〃　②
6．社会貢献活動および学校生活新聞作成　②
7．社会貢献活動および学校生活新聞のグループ発表　①
8．Instagram の活用
9．社会貢献活動および学校生活新聞作成　③
10．社会貢献活動グループ発表資料作り　①
11．　〃　②
12．社会貢献活動および学校生活新聞作成　④
13．社会貢献活動および学校生活新聞のグループ発表　②
14．社会貢献活動のグループ発表　①
15．　〃　②

事前・事後学習の内容

・課題に必要な資料（写真、動画）を事前に収集し、作成する。

評価の方法・基準

・出席状況を含む授業態度（20%）、発表（40%）、制作物（40%）により評価

教科書

・なし

備考

授業科目	国家試験対策			担当者	寺藤　美喜子、 梅田　光希、樋口　富枝		実務経験
履修方法	演習	期間	通年	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	６０ （2）

授業の目的・内容

介護福祉士国家試験に向けての対策講座である。介護福祉士国家試験に必要な知識の習得を行う。

また、外部業者による模擬試験、学力評価試験や学内模試など模擬試験を受け、①試験の雰囲気に慣れる、②国家試験の傾向を掴む、③学生自身の弱点の克服を目指す、ことを目的とする。

到達目標

・介護福祉士国家試験に出題される基本的な知識の習得ができる

授業計画

【後期】

1．学内模擬試験Ⅰ―①
2．　〃　　―②
3．　〃　　―①②の解説
4．介護の基本・介護過程
5．生活支援技術①
6．学内模擬試験Ⅱ―①
7．　〃　　―②
8．　〃　　―①②の解説
9．生活支援技術②
10．人間の尊厳と自立・コミュニケーション
11．社会の理解①
12．外部模擬試験（午前）
13．　〃　　（午後）
14．　〃　　解説
15．社会の理解②
16．こころとからだのしくみ
17．発達と老化の理解
18．障害の理解
19．外部模擬試験（午前）（外部会場）
20．　〃　　（午後）（　〃　）
21．　〃　　解説
22．医療的ケア・総合問題
23．学内模擬試験Ⅲ―①
24．　〃　　―②
25．　〃　　―①②の解説
26．学力評価試験（午前）
27．　〃　　（午後）
28．　〃　　解説
29．学内模擬試験Ⅳ
30．　〃　　Ⅴ

事前・事後学習の内容

・行った模擬試験問題など解説も含めて、授業終了後プリントや資料（授業で使用したもの）をファイリングし、自己学習に活用する。
・中央法規出版の国家試験対策問題アプリケーションを用いて、各自計画的に勉強を進めること。

評価の方法・基準

・学内模擬試験の成績（85%）と出席状況・授業への取り組み(15%)で総合的に評価する。
※外部業者による模擬試験や学内の模擬試験は休まず受験すること。
※模擬試験を休んだ場合は、補講として放課後残りその週のうちに模擬試験を受験すること。

教科書

・『2025 年版　介護福祉士完全マスター問題集』（ナツメ社）
・『介護福祉士国家試験わかる受かる合格テキスト 2025』（中央法規出版）
・必要資料は適宜配布する。

備考

授業科目	介護特論			担当者	吉岡　俊昭、 寺藤　美喜子、梅田　光希		実務経験
履修方法	講義	期間	前期	学科・学年	介護２年	時間数 （単位数）	３０ （1）

授業の目的・内容

各福祉施設に求められる人材の性質を理解し、就職試験対策や必要書類の準備をしていく。社会に出てから必要なマナーを学ぶ。

到達目標

・適切な自己表現、自己主張をすることができる。
・希望する就職先から内定をもらうことができる。

授業計画

【前期】

１．オリエンテーション、求人票記入
２．求人票のよみ方
３．就職希望調査
４．小論文・作文練習①履歴書の書き方
５．　〃　②
６．　〃　③
７．お礼状練習①
８．　〃　②
９．採用試験対策①
10．　〃　②
11．就職ガイダンス参加　①
12．　〃　②
13．採用面接練習　①
14．　〃　②
15．　〃　③

事前・事後学習の内容

・日々の言葉遣い、行動を意識する。
・福祉関連ニュースに興味を持ち、内容を理解する。
・いつでも試験を受けることのできる心構えを持つ。

評価の方法・基準

・出席状況(40%)、授業態度(50%)、提出物(10%)によって総合的に評価

教科書

・プリント配布

備考